

# 百年後の世の中を予測する

百年前は約十五億人だった地球上の人口が、現在約七十二億人。百年後にはどうなっているのだろうか。石油などの化石燃料は、ほぼ枯渇していると言つ。砂漠化も進んでいるのだろうか。また、人工知能を持ったロボットが活躍し、宇宙旅行が当たり前になっているかもしれない。百年後をただ漠然と考えているだけでは何も進まない。だから、一步を踏み出した。



**百** 年後の世の中とは、百年後の世界情勢と我が国、日本の状態のことだ。

まずはここ百年はどうだったのかを考えてみる。ソ連、東ドイツ、ユーゴスラビア、チベットをはじめ、植民地にされた国、戦争で敗れた国など、滅んだ国は、百カ国以上もある。逆に繁栄、存続してきた国も多々ある。繁栄する国と滅ぶ国、それぞれに共通点はあるだろうか。情報を集め、分析し、過去と現在を照らし合わせる。そして、仮説を立てる。百年後の日本が消滅しているのか、存続しているのか、国の状態を大きく四つで考える。①消滅させられる。②自滅している。③存続するも他国にコントロールされている。④真に独立国家として存続している。

滅びた国々を検証すると、他国の武力攻撃によって消滅させられる確率は極めて低い。圧倒的に多いのが自滅である。権力争いや、スパイ活動などによって内部崩壊させられるということだ。では、国を存続させるために必要なものは何か。軍事力や外交能力は当然として、最も必要なのは、国

民の意志だ。スポーツチームでも、会社でも、身近なことで考えても、意志の無いところには何も残らない。日本は七十一年前の敗戦で、消滅してもおかしくなかった。

昭和天皇をはじめ、先人が努力して、ギリギリ③の状態で存続しているのが、現状の日本だと考えている。先人の強い意志によって消滅は免れたのだ。元寇、幕末、そして大東亜戦争と幾度の国難に晒されながらも、その都度、先人が強い意志で、国難を打ち破ってくれた。そのおかげで神武天皇即位以来、日本は二六七六年間続いてきた。日本には「国が続くのは当たり前だ」と思っている人が多いのではないか。意志無く「ただ存続していればよい」という国は、どこかの覇権国家に食い物にされて終わるのが世界の常識である。

**デ**ータを示し、日本の若者に現実を伝える。軍事力、政治に対する国民の不満度、貧富の差、エネルギーや水・食糧問題、環境問題、移民問題などの世界の情報。そして、憲法問題、情報漏洩やスパイ

問題、防衛費や自衛隊の戦力、学校制度や教育の見直し、デフレなど日本が抱えている問題点。今を生きる日本人として、百年後どのような状態で、日本を存在させたのかという意思表示が必要である。

楽観的に考えても、世界が一つにまとまるのは百年後では難しい。だが、心ある貢献をしていくことで、「日本はいつまでも残ってほしい国だ」と各国から支持され、世界の手本となる国になることは可能だ。エネルギーやインフラ、水処理、農業などの技術支援を中心に、世界の人々の安定した生活に貢献する。世界のリーダー達に「指導下の幸せがいかに大切か」を教育する。会社でも一人のリーダーが組織を次々と変えていくように、世界の国々に対しても同じことをやるだけだ。

百年後の世界を予測し、その道筋を導き出すための意思表示が、平成二十八年二月に立ち上げた『しがく総合研究所』だ。まだほんの小さな研究所だが、日本や世界を牽引するリーダーに対して支援をしていけるよう、日々精進する決意である。

(株)キャリアコンサルティング 代表取締役社長 **室舘 勲**  
Murodate Isao

1971年青森県に生まれる。2003年株式会社キャリアコンサルティングを設立。2007年ブータン王国王立マネジメント大学にて講演。就活支援「プレミアムスタイル」は2015年4月入社の内定率98.37%を達成。著書に「夢を見て 夢を叶えて 夢になる」(致知出版社)、「まずは上司を勝たせなさい」(講談社)、「仕事で結果を出す人の頭の中」(しのめ出版)がある。